人に優しい農法知って

ＡＴＲに砂栽培施設

農業を通して地域住民に広く研究に参加してもらおうと、京都府精華町の国際電気通信基礎技術研究所（ＡＴＲ、平田眞末社長）は１日、「人の視点を重視する、これからの農業」をテーマに、ＡＴＲプロモーション（京都府精華町）との協働で、同社の敷地内に砂栽培農業施設を開設した。

ＡＴＲ敷地内に開設した砂栽培農業施設＝１日、京都府精華町光台２丁目の国際電気通信基礎技術研究所

施設は、安全性が高い上、人体にも優しいとされ、土の代わりに砂を使って、チッソやリン酸、カリウムなど液体の肥料を注いで野菜を育てる農法。

同研究所がこれまで培ってきた最先端のＩＣＴ（情報処理・情報通信技術）を用いた仕組みすのロボットを使い、高齢者や障害者にも農業に触れてもらいたいとしている。

東レ建設やクリーンファーム、日本砂栽培協会などとの連携で実現した。

同施設のＡＴＲオープンハウスが７、８日の２日間予定されている。

同取り組みは、日本砂栽培協会（谷口裕雄会長、大阪府四条畷市）のコーディネートのもと、東レ建設（富山元行代表取締役社長、大阪市北区）とクリーンファーム（田中克代表、大阪府四條畷市）の協力で実現した。

奈良新聞　2013/11/02　朝刊　11面（第1社会）